

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	住吉区
学 校 名	南住吉小学校
学校長名	畠中 紹宏

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・南住吉小学校では、第6学年 103名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

教科に関する調査結果においては、国語科・算数科・理科とも平均正答率で全国の平均値ならびに大阪市の平均値を下回る結果となった。特に対全国比で、国語科については8ポイント、算数は11ポイント、理科は13ポイント、を超える差があり、課題がある結果となった。また、全国の平均無答率については、国語科は全国値と同じであったが、算数科・理科とも全国値を上回る結果となった。

分析から見てきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕内容別で見ると、全国平均正答率との差が、「話す聞く」は14.7ポイント、「言葉の特徴」が11.7ポイント、「書く」は9.7ポイント、「情報の使い方」8.2ポイント、「読む」が6.5ポイントの差がみられた。「我が国の言語文化」は0.8ポイントとあまり差が見られなかった。他の内容もすべて下回る結果となった。

〔算数〕内容別で見ると、全国平均正答率との差が、「数と計算」が11.4ポイント、「変化と関係」13.1ポイント、「データの活用」は差が13.6ポイント、「図形」が9.4ポイント、「測定」は9.7ポイント下回る差がみられた。

〔理科〕内容別で見ると、全国平均正答率との差が、「エネルギー」を柱とする領域で18.1ポイント、「粒子」を柱とする領域は12.6ポイント、「生命」を柱とする領域16.2ポイント、「地球」を柱とする領域は12.7ポイント下回る差がみられた。

国語科・算数科・理科とも全国平均正答率を下回っていることから、朝学習や習熟度別少人数指導の進め方についてより効果的な活用方法を図り、個に応じた学習を継続して進めていきたい。

質問調査より

朝食を毎日食べている割合は93%と高く家庭での朝食をとることの重要性が定着しているといえる。また、いじめに対する意識については「いじめはどんなことがあってもいけない」と考える割合が全国平均と同じぐらいで、学校全体で取り組んでいる人権教育活動や児童会活動、生活指導等で児童自らが考えて行動できるような様々な取り組みの成果の表れと言えるので、取り組みを継続していきたい。人の役に立つ人間になりたいと思いますかの質問は全国平均を上回るほぼすべての児童が肯定的解答を行っており、児童の前向きな姿勢を今後も大切にしていきたい。

今後の取組(アクションプラン)

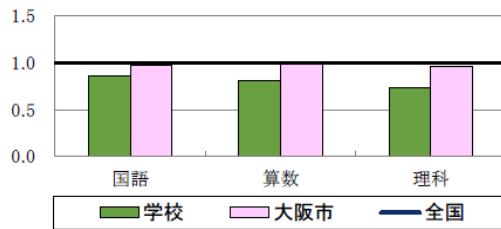
国語科・算数科・理科ともに全国平均を下回ることから、児童一人ひとりの実態把握を行い、基礎基本の定着を目指した支援を行う。学習内容の充実や定着、家庭学習での個別支援として、デジタルドリルの活用やデータ配信教材を活用し、基礎基本の定着を図りたい。また、授業が、主体的・対話的で深い学びに沿ったものとなっているかを確認し、授業の改善に努めたい。また学力向上を図るためにも、教員が、一人一授業授業検証を行い、指導力向上をはかるとともに、学力アップコラボレーター、学びサポーターを活用し、児童の基礎基本の定着を目指したい。

【 全体の概要 】

平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	57	47	42
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

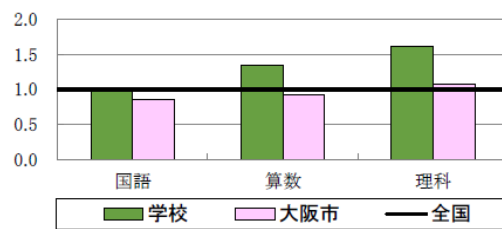
平均正答率(対全国比)



平均無解答率（％）

	国語	算数	理科
学校	3.3	4.8	4.5
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

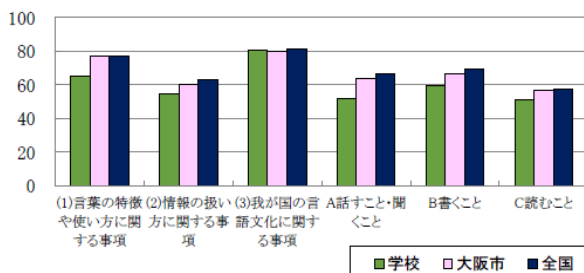
平均無解答率(対全国比)



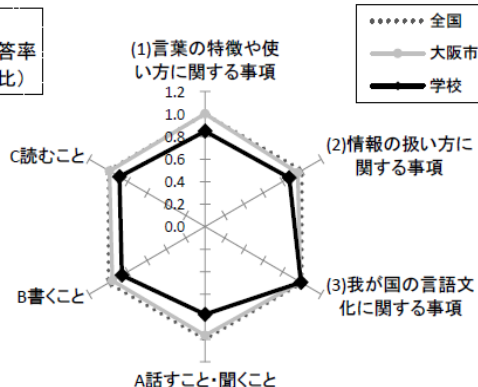
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	65.2	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	54.9	60.4	63.1
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	80.4	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	51.6	64.0	66.3
B 書くこと	3	59.8	66.7	69.5
C 読むこと	4	51.0	56.9	57.5

国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



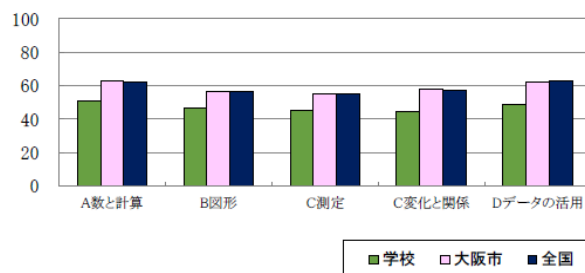
国語
内容別正答率
(対全国比)



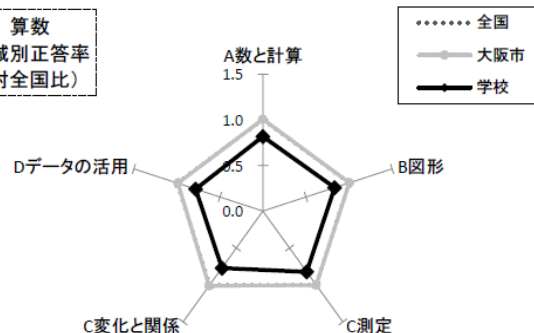
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	50.9	62.7	62.3
B 図形	4	46.8	56.4	56.2
C 測定	2	45.1	54.9	54.8
C 変化と関係	3	44.4	58.2	57.5
D データの活用	5	49.0	61.9	62.6

算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)

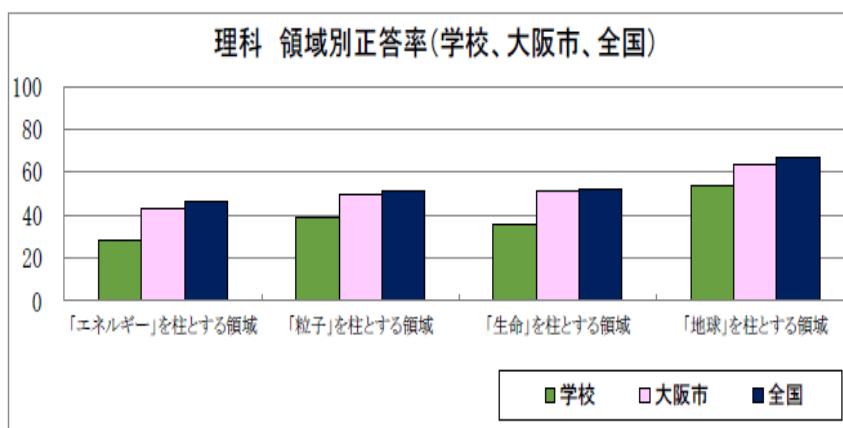


算数
領域別正答率
(対全国比)

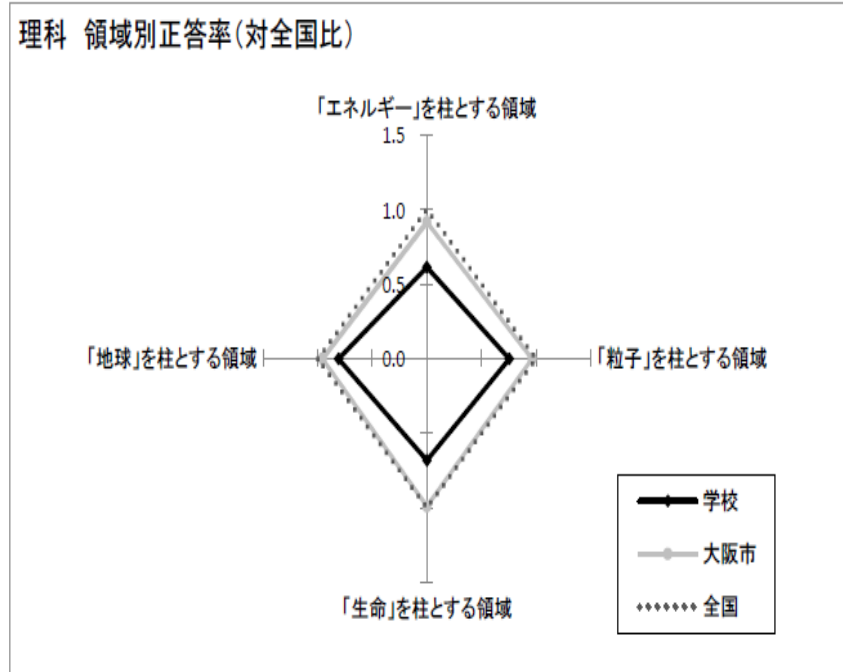


【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	28.6	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	38.8	49.5	51.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	35.4	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	54.0	63.8	66.7



理科 領域別正答率(対全国比)



児童質問より

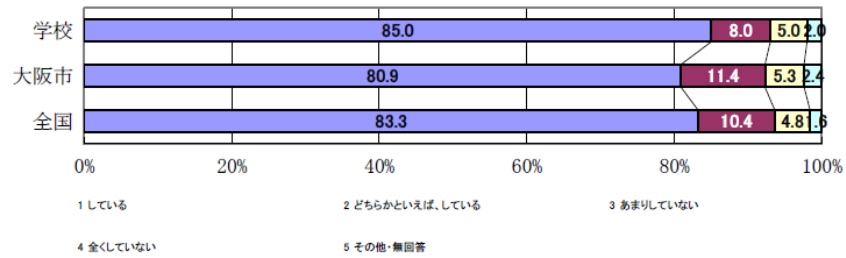
質問番号

質問事項

1

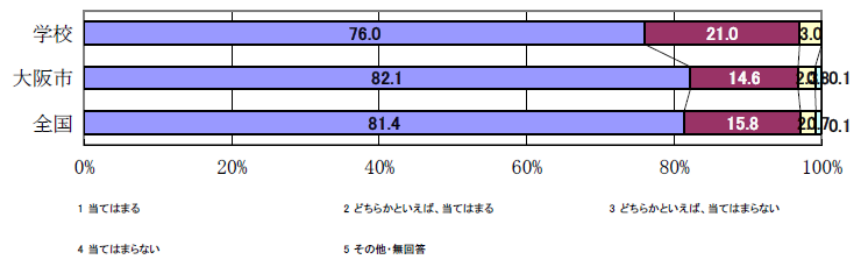
朝食を毎日食べていますか

1 2 3 4 5 6 7 8



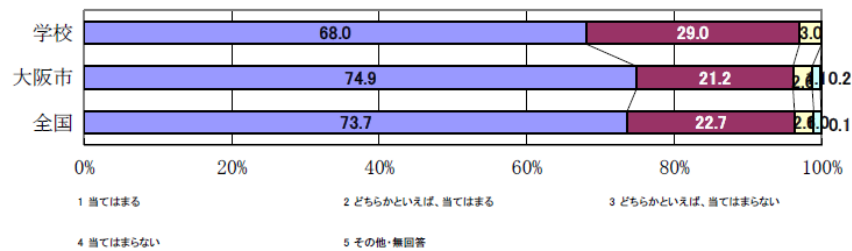
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



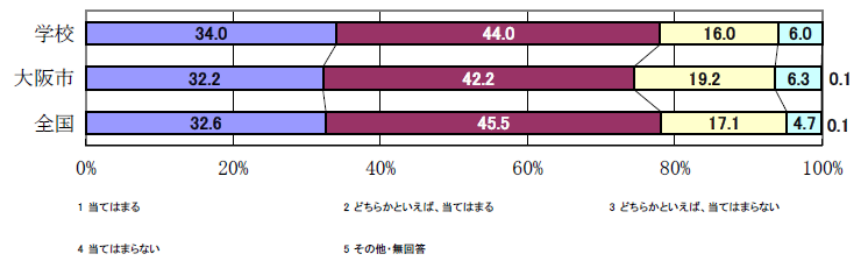
11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



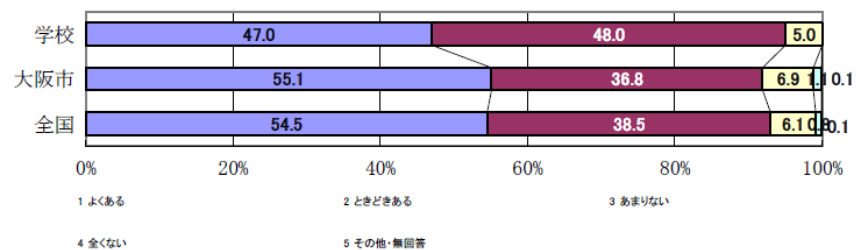
13

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



15

普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



学校質問より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

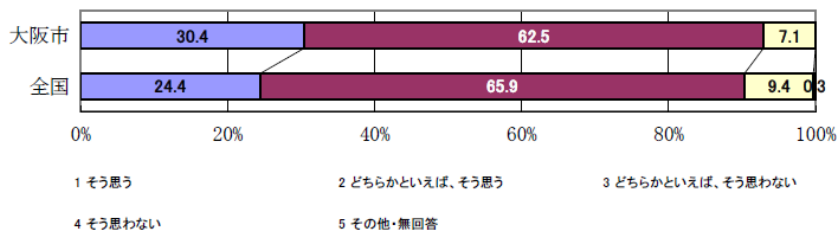
質問番号

質問事項

7

調査対象学年の児童は、熱意をもって勉強していると思いますか

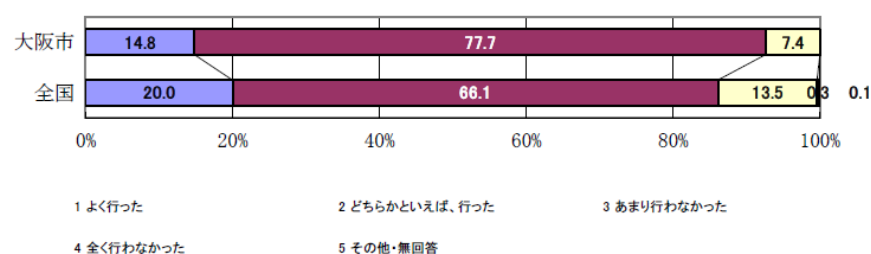
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



9

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか

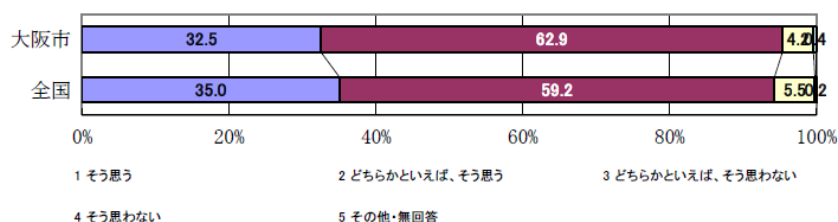
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



28

調査対象学年の児童は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか

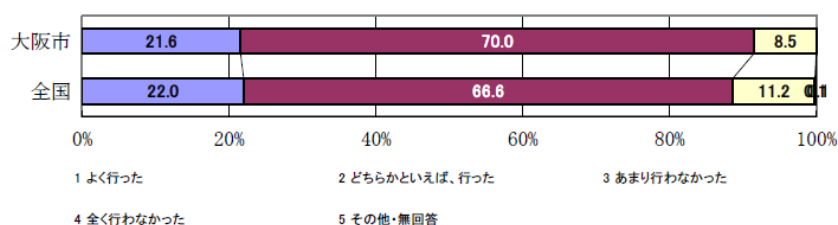
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



33

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか

学校 「どちらかといえば、行った」を選択



37

調査対象学年の児童に対して、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか

学校 「どちらかといえば、している」を選択

